Cada

Cada means in Spanish "It is amazing. "You can find highlights of cars from all over the world.

ル・ボラン増刊カーダ7月号
1977年5月20日第3種郵便物認可
LEVOLANT EXTRA
カーダ
July 2004
680円
VOL.12

［特集］
当世ラテン白書
輸入車ミニバンの時代

特別な1台に乗りたい
巻頭特集
アルファ147の限定車
「ペルソナーレ」が
勝手にデビュー!

私、オグラは、ラテン系のスモールカーには、きわめて弱い。つまり、アバタもエクボ。なんでもかんでもよく思えて、大甘の評価を下してしまうことが多い。だから、このリポートも大幅に差し引いて考えてもらっていい。

新型パンダは、登場前に舞台裏でちょっとガタガタした形跡がある。そのコンセプトカーは、02年のボローニャ・ショーに、ミニSUVというふれ込みで、"シンバ"の名で登場した。当初フィアットは、パンダという名を与える予定がなかったようなのだ。が、なぜかその市販版は、パンダという名がついた。

コンセプトカーの"シンバ"は翌春のジュネーブで"ジンゴ"となり、その名でカタログも作られていたというから、フィアット内部の意志決定に迷いがあって、遅れたことは確か。日本ではちょっと考えられないことだが、フィアットらしいといえばフィアットらしい。

「このクルマがパンダ?」

前のパンダに少なからず惹かれていたオグラには、正直、かなりのショックだった。その顔は、最近のフィアットの傾向を反映して、超保守的。なんというか、全体にサムシングがなく、パンダというには、あまりに平凡と思えたのだ。また、ジウジアーロがデザインしたわけでもない。

しかし、クルマは乗ってみなければ分らない。そして乗ってしまうと、このクルマに対する考え方は、それこそ180度、ネガティブからポジティブへ、ガラッと変わってしまった。

気に入ってしまった理由は、その運転感覚にある。エンジンは例のFIRE 1.1ℓであり、パワーは60psに過ぎないから、大きくなって860kgにもなったボディには、やや非力と思えたのだが、これがなかなか。5速ミッションは全体にローギアードだから、引っぱれば、それなりに活発。エンジンは回せば回すほどに活気づくタイプで、高回転になれば、音も大きくなるが、かといって苦し気な気配もなく、高回転が維持できる。シフトレバーは、ミニバンのようにダッシュのセンターコンソールから生えるタイプ。これはワイヤー式で、シフトストロークも少なく、ゲート感もあって、気持ちよく操作できる。

サスペンションは、フロントがストラット、リアがトレーリングアームという平凡なもの。とはいえ、前のパンダと比べると、格段に向上したボディ剛性が足回りもシッカリと支えて、じつに素直なハンドリングを実現している。トールボーイで上背があるから、ロールはやや大きく感じられるが、これも慣れてしまえば問題ないという程度。電動アシストのステアリングは、常に軽く、ちょっと心もとないが、やがてこれも適度なステアリングインフォメーションをもたらしていることに気づき、かえって好ましくなってくる。

ということで、その運転は、けっこう楽しいのである。パワーを必要とするワインディングの上りは、まあ速くはない。しかし、下りになれば、こちらのもの。ヒラリヒラリといった感覚の軽快なドライビングが楽しめるのである。絶対スピードが速いか遅いかは別にして、スポーツしている気分を味あわせてくれるのがうれしい。コーナリングスピードが限界に近づくと、フロントタイヤがスキール音を発して、驚かせてくれるのもいい。

まじめな話、この新型パンダは、よくできたベーシックカーだと思う。前のパンダが、なぜ魅力的であったかを考えると、自動車としてきわめてプリミティブで、その運転感覚を含めて余計な飾りがなかったからだろう。だとすれば、この新型もその良さは、十分に受け継いでいる。衝突安全対策で、ボディが大きくなり、SUV的香りもただよわせているが、荷物も運べて多用途に使える足という性格は、なんら変わっていないのである。

パンダは、オーナーの人生に対する考え方を表すクルマだと思う。それは、シンプルライフ、あるいはクオリティ・オブ・ライフというものではないだろうか。このクルマ、新型車としても魅力的だ。

ダッシュボードは相変わらずプラスチッキーだが、精度感は向上し、スイッチ類の操作系は使い勝手も良好。シフトレバー横は、ニーサポートにもなる。

問／ビアルベーロ ☎054-277-0578

静岡にあるビアルベーロは、イタリア車専門。NEWチンクエチェントのトロフェオも輸入したことがある濃いショップだ。ドイツのフィアット・アルファチューナー、ノヴィテックの輸入元でもある。

2004年の欧州カー・オブ・ザ・イヤー・カーのハンドリングは、素直のひと言。けして速くはないが、その気にさせてくれ、スポーツを味あわせてくれるのがいい。

CLOSE UP 01 NEW & CAR

News & Movement
July 2004

パンダとして合格 そして 新型車としても魅力的

新型パンダが、正規輸入よりも ひと足先にやってきた。 国内で初試乗した本誌総括編集長の小倉は 「オレ、買っちゃいそうだよ」と好印象だ。

文=小倉正樹 写真=柴田幸治
text=Masaki Ogura photo=Koji Shibata